

シラバス

授業時間割

シラバス検索>>検索結果>シラバス照会

戻る

印刷

↓画面下へ

授業コード	520096	オムニバス	
科目名	ヒューマンケアと生活空間 (Humancare and Living Space)		
配当学年	1	単位数	1
年度学期	2020年度 秋学期	曜日時限	木曜1限
対象学科	建 建築_Lコース	コース	
科目区分	専門科目	必選の別	必修科目
担当者	勝木 祐仁		
教室			
実務家教員担当授業			
授業の目的と進め方	ヒューマンケアの概念が登場した社会的背景と制度的背景について基礎的な知識を得る。生・老・病・死・障がいなどのテーマに基づく具体的な事例から、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる様々な人の思い、その人たちと向き合う自分について考える。また、ヒューマンケアにおける生活空間の位置づけと役割を考える。授業はビデオ講義、ゲスト講師による講義、グループワークによるリフレクション（ふり返し）で構成される。		
達成目標1	ヒューマンケアの概念と、その登場した社会的背景・制度的背景について概要を説明できる。【20%】		
達成目標2	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちの置かれた立場や思いを具体例に基づき表現することができる。【20%】		
達成目標3	生の意義、老・病・死・障がいとともに自分らしく暮らすことの意義について自分の考えを述べる事ができる。【20%】		
達成目標4	コミュニケーションの様々な形と、ケアし/される関係について自分の考えを述べる事ができる。【20%】		
達成目標5	ヒューマンケアと生活空間の関わりについて説明できる。 【20%】		
達成目標6			
達成目標7			
アクティブラーニング			
ディスカッション	<input type="radio"/>	ディベート	<input type="radio"/>
		グループワーク	<input type="radio"/>
実習		フィールドワーク	<input type="radio"/>
その他課題解決型学習			
修得する知識・技能	関与度	修得する知識・技能	関与度
専門的知識・技能	<input type="radio"/>	実践的技術力	<input type="checkbox"/>
		豊かな人間性と社会性	<input type="radio"/>
	授業計画	授業時間外課題（予習および復習を含む）	
第1回	ヒューマンケアとは	「ヒューマンケア」とは何か、現時点での自分の考えを整理し、人に説明できるようにしておく。（1時間）	
第2回	生をみつめる	生の意義や出生に関する社会的・文化的な課題について、自分の考えを整理し、表現できるようにしておく。（1時間）	
第3回	老いをみつめる	老いをめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。（1時間）	
第4回	病と向き合う	病をめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。（1時間）	
第5回	緩和ケアを通じて「生」の意味を知る	緩和ケアをめぐり、その当事者やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。（1時間）	
第6回	コミュニケーションについて考える	コミュニケーションの多様なあり方について、自分の考えをまとめておく。（1時間）	
第7回	チームについて考える	チームの多様なあり方やチーム形成について、自分の考えをまとめておく。（1時間）	
第8回	ケアを必要とする人の思いを知る（1）：生・老・病・死	生・老・病・死 をめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。（1時間）	
第9回	ケアを必要とする人の思いを知る（2）：障がい	障がいをめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに	

		関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。(1時間)
第10回	ヒューマンケアと生活空間(1):住まい	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちにとっての住まいの意義や課題について自分の考えをまとめておく。(1時間)
第11回	ヒューマンケアと生活空間(2):施設	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちにとっての施設の意義や課題について自分の考えをまとめておく。(1時間)
第12回	ヒューマンケアと生活空間(3):まち	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちにとってのまちの意義や課題について自分の考えをまとめておく。(1時間)
第13回	リフレクション(グループディスカッション)	この授業を通じて自身が学んだこと、他の学生が学んだことをふり返り、自分の考えをまとめ直す。(1時間)
第14回	まとめ	この授業での一連の学びを総括し、これからの学びと行動にどのように活かせるか、自分の展望をまとめておく。(1時間)

評価方法と基準	各回のレポート(70%)、最終レポート(30%)
テキスト	
参考図書	埼玉県立大学『IPWを学ぶ—利用者中心の保健医療福祉連携』中央法規出版(2009)【ISBN:978-4805848685】
科目の位置づけ(学習・教育目標との対応)	この科目で学んだ「ヒューマンケア」を、「ケア空間体験実習」(1年秋・集中)では人の暮らしの現場で体験的に理解する。その2つの科目を通じて、「協働デザインの手法」(2年秋)、「福祉空間の設計」(2年秋)、「専門職連携実習」(3年春・集中)で連携と協働を学ぶ上での基礎的な態度と認識を養う。
履修登録前の準備	自分のこれまでや今の人との関わりに照らして「ヒューマンケア」とは何か考えておく。また、「ヒューマンケア」と生活空間について考えておく。

印刷

↑画面上へ

戻る